

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成28年12月12日	評価結果市町村受理日	平成29年 3月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人で1日2回の看護師の往診と1日1回の医師の往診があるため、医療依存度の高い方の受け入れも対応させて頂いている。また、24h体制なので、胃ろうやIVH、酸素持続の方も受け入れる事が出来るため、重度化しても最後まで今日香で過ごす事を希望される方が多い。
建物に関しては、平屋なのでフロア間の行き来がスムーズに出来るため、フロアの違う方同士の交流も日々行っている。田舎ということもあり施設の庭も大きいため入居者の散歩には丁度良い距離になっている。庭専門のスタッフが毎日管理してくれているため、安心して車椅子やリクライニングの方の散歩も行くことが出来る。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JgvsyoCd=2276600422-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は利用者の出来ないことを見るのではなく出来ることを見つけ活躍できる場となるよう、清掃や縫い物、洗濯物をたたむ、料理など教えてもらえることに感謝し、理念の「お互い様の心」で支えあう環境を作る取り組みを行っている。災害時の不安を除けるよう、利用者の状態に合わせて普段からドライブで避難車の割り振りや、トリアージの細部にわたる検討をし、運営推進会議で施設の課題について話し合いを行っている。今年、指示待ちをするのではなく各フロア毎の記録係りが消火活動・通報連絡、フリーと運番が避難誘導など具体的な内容のあらゆる災害時において誰でも役を担えるような災害マニュアルを作成し訓練を重ねている。職員は自分だったらという思いで重度の人も浴槽にゆっくり浸かる、ベッドやソファを使い皆と一緒に過ごせる細やかな支援をしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年	1月	12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両方の玄関に理念を掲示しており、常に個々が確認出来るようにしている。その他にも、入社時と年に1回は必ず会議などで理念の確認をしている。	開設当初からの「お互いさまの心」の理念は利用者や職員・職員同士が互いに認め合う基礎となっている。職員の意見も入れて管理者が作った今年度の目標に対し、各フロア毎月1度の会議時に前月の評価をし、次の目標を決め実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているため、草刈りや防災訓練、地区の祭りなどに参加している。施設主体の交流としては、ジャズライブを行い、地域交流の場を設けている。	散歩や買い物に出掛け、畑仕事やランドゴルフをしている地域の人達と顔見知りになって挨拶をしている。みかんや柿・白菜などの差し入れがある。祭りに出かけると地元の利用者の知り合いが声を掛けてくれ、ホームに訪ねてくることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自宅で介護をしている地域の方たちのための家族の会に参加させて頂き、自分たちが持っている知識や技術を提供させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いの中で出た意見や新たに教えて頂いたことを、職員会議で全職員に報告し、実践に繋げている。	何数月の家族が出席できる日に合わせ、行政と日程を調整し、必要なメンバーが揃って2ヶ月に1度の開催をしている。災害時の課題や対策について話し合いが行われ、分かりやすくまとめた議事録は全家族に送付されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加して頂いているため、その都度不明な点があれば相談させて頂いている。	市主催の事業所連絡会が年に3~4回あり出席している。行政・地域包括職員は毎回運営推進会議に出席していて、日頃から気になることがあると電話で相談したり、研修案内等持参してくれ参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回、施設での勉強会と法人の勉強会にて全職員に把握してもらえるよう努めている。また、職員の入社時にも個人的に勉強会を行い、把握してもらえるよう努めている。	行動をとめるなど不適切なケアと思われる対応が見られたときは対策を話し合い、医療依存度の高い人にも職員は個別な状態に合わせて検討を重ね、より安全に拘束をしないで過ごせるケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回、施設での勉強会と法人の勉強会にて全職員に把握してもらえるよう努めている。また、職員の入社時にも個人的に勉強会を行い、把握してもらえるよう努めている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回施設での勉強会を行い、制度について学んでいる。現在はこの制度を活用している方はいないが、必要となったときにしっかり説明出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず直接会って説明させて頂いている。改定時には文章での連絡と、面会に来て頂いたときに直接説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、なるべく多くの職員が家族と話す機会を設け、そこで出た意見などがあればその都度職員同士話し合い、早急に対応するよう努めている。	昨年の目標達成計画に掲げ、より家族の意見を聞ける機会として家族会を花見と敬老会に合わせて2度行っている。面会時に普段の様子を把握している職員と話すことで、より身近な関係作りになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、最初にそれぞれの係の担当者から話してもらうようにし、みんなが話しやすい環境づくりを心掛けている。	日常的に管理者と職員は話しやすい関係で、ケアの提案等職員は言っている。リサイクル・オムツ・食物等10の各委員が会議時に順番に発表し、自由に意見が出て話し合い検討して反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回自己評価と面談を行い、話し合いの結果で昇給の金額を決定している。また、生活状況に応じて、休日を固定にしている者もいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会は年に数回行い、施設での勉強会は毎月2回行っている。外部研修に関しては、希望があれば参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	色んな事業者連絡協議会などの勉強会にも積極的に参加し、自らの知識や技術を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人が生活している場へ行って話をすることにより、話しやすい環境を作っている。そこで知り得た情報や悩み事などを施設に持ち帰り、職員と相談し、安心できる空間づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話している時に解決策が浮かぶようであれば、今後どのように工夫して対応させて頂く予定なのかを分かりやすく説明させて頂いている。必要であれば、過去の事例も紹介させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの利用が困難となり、グループホームを紹介される方がほとんどなので、他のサービス利用の話はしていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は出来る限り自分でやらせよう心掛けている。1人ではなく、みんなで一緒にやれることも検討しながら対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1回、写真付きの手紙と文章だけの手紙をセットで送らせて頂いている。面会時には、最初職員が間に入って話をし、話しやすい空間を作ることで、家族がスムーズに話をすることが出来るよう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多くなってきたため、面会者とは違う方も知り合いだということも増えてきており、フロアが違っても話をされていく方が多い。	馴染みの神社に初詣に行ったり、入居前から利用していたマーケットに買い物に行っている。地域の防災訓練や祭りに参加すると知り合いから声が掛かることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限りみんなで一緒に何かをする機会を作っている。その中で、1人1人の様子を把握し、孤立することのないように席の配置を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまでさせて頂いているため、本人と関わることはないが、地元の方が多いためお会いすることがあれば、お話をさせて頂くことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情などの変化から、本人の思いをくみとり、その思いに応えられるよう工夫している。困難な場合であっても、ちょっとした表情の変化などから思いをくみ取れるよう努めている。	細かな表情の変化を見逃さないように、眉の位置から気持ちを押し図ることもあり、言葉に出せない思いをくみ取っている。職員が声をかけると、少し言葉を発したり表情が動いたりして、家族の面会時には職員が仲立ちして家族の気持ちにも寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報を作成し、入居前にご家族に伺った情報を全職員が把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があったことについて把握しやすいよう、フロアノートを作成している。また、申し送りの時にも口頭で説明している。また、毎朝カンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝1人ずつプランの評価を行い、変化に早く気づけるよう心掛けている。変化があれば、ご家族や多職種とも相談し、変更が必要であればその都度新たにプランを作成している。	朝の申し送りで一人ずつ、全員分を毎月評価している。少しの変化でも対応しやすく、「どうなりたいか」「何をどうすればいいか」具体的計画内容について医師、看護師、家族の意見を聞いて介護計画書を作成し、家族の了解をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録とは別に、フロアノートを作成し、個人の細かい変化の情報を記入している。また、プランの所にメモを入れておくなどして工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出や外泊だけでなく、馴染みの場所や店などにも行けるように工夫している。また、内科以外の病院受診にも対応させて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療依存度の高い方が増えてきたため、外出はあまり出来ない。そのため、地域のボランティアの方に演奏をお願いしている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人であり、1日2回の看護師の往診と1日1回の医師の往診があり、24h体制なため、入居時にご家族様と相談し、主治医を移してもらっている。その他の病院については今まで通り通院してもらっている。	1名が家族対応で精神科を受診している。毎日協力医の往診があり、月2回訪問歯科がある。管理者とリーダー同行で受診している人もいる。変化があれば家族に連絡し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24h体制なので、入居者の体調に変化があればいつでも相談できる環境が整っている。連絡するとすぐに対応してもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療法人のため、入院時の情報交換は母体に対応してくれており、スムーズに行えている。入院中や退院時は、病院にてムンテラをしっかりと行い、安心して施設に戻ってきてもらえるよう準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前にも看取りまでさせて頂ける施設であることを伝えてあるが、実際に状態に変化があった場合にも、その都度話し合う機会を設け、看護師や医師の意見も交えて対応させて頂いている。	今年度は2名の看取りを経験している。状態の変化で関係機関・家族と話し合いプランを立て支援し対応している。重要事項説明書で重度化した場合の指針を示し契約をしているが、実際は家族が遠方だったり急な対応が困難だったり課題が増えてきている。	事業所としての指針は明文化されているが、個別な状況に事業所として対応していくための書類作成に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月ヒヤリハットと事故報告の対策を職員みんなで話し合って把握するよう努めている。また、年に1回施設の勉強会で事故対策について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の訓練は、日中だけでなく、夜間を想定したものも行っている。また、年に1回勉強会を行い、全職員が把握し対応できるよう努めている。	指示者が固定されていると指示待ちの状態になるのを防ぐため、誰もが役を担うように新たな災害マニュアルを作成した。利用者の状態に合わせた避難車の割り振りやトリアージ等細部にわたって検討し、推進会議でも話し合い、常に災害時を意識して対策を講じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けについては、丁寧にゆっくり話した方が良い方や、方言を使ってさらっと話した方が良い方など、人によって様々なので、1人1人少しずつ変えている。	職員は料理や裁縫など利用者に教える姿勢で、人生の先輩として尊重する姿勢が、「理念のお互い様の心」の返答の中に表れていた。場面によって「じいじ・ばあば」と呼びかけ穏やかな対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しい言葉ではなく、簡単な言葉で分かりやすく伝え、答えやすいように工夫している。また、会話のペースもゆっくり話すよう気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の1日の予定は決めず、それぞれが過ごしたいように過ごして頂くようにしている。自分で決めることが出来ない方に関しては、その都度声掛けし、本人の希望を聞きながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の服装や靴などを見て、それが欲しいという訴えが聞かれたら、近くのスーパーなどへ一緒に買いに行くようにしている。お化粧品などほしい方がいればして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の給食センターから届くため、硬さや味付けなどは少し調整して配膳している。おやつはフロアで作ることも多い。	惣菜は届さ、ご飯と汁物は作っていて、おやつ分けの野菜を使って調理をすることもある。魚はダメ、漬物だけ、お菓子しか食べない等、偏食者が多いがパンやバナナ等すぐに対応できる食材を常時用意している。声かけや工夫で煮物の味付けに偏りのある人が少しずつ食べ始めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表にて日々の摂取量などを確認し、気になるようであれば往診の看護師や医師に相談し対応している。1回の摂取量が少ない方は、回数を増やして摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後に行っている方と、起床入床時のみ行っている方がいる。また、月に2回訪問歯科が来て対応してくれている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて1人1人の状態を把握し、排泄リズムをつかむことで、自立に向けてのケアを行っている。	自力でトイレに行ける人は少なく、何らかの確認や介助が必要になっている。個別なリズムや習慣を把握して援助している。夜はオムツでも昼はリハビリパンツでトイレでの排泄を支援している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時には食物繊維の多いものを食べてもらったり、乳製品を摂取してもらったりする。その他は出来る限り楽しみながら運動できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	点滴持続の方に関しては、往診の処置があるため、午前中に入って頂いている。その他の方に関しては、午後に声掛けして入浴してもらっている。	重度で寝ていることが多い人は週2回、他の人は1日おきに入浴している。全員がシャワー浴ではなく、職員は自分だったらという思いで1人、2人介助で浴槽にゆったり浸かる支援をしている。特に同姓介助希望の人はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は特に決めておらず、本人の意思に任せている。日中も、ぐっすり眠ってしまう事の無いよう、気をつけながら見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書に関しては、それぞれのファイルに入っているため、いつでも確認できる。また、新たに出た薬に関しては、フロアノートに記入し、サインをしてもらうことと、申し送りにて口頭で全員に伝わるまで送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日晚酌を楽しんでいた方に対し、入居後も続けて晩酌できるよう配慮している。また、買い物に行きたいという方がいれば、一緒に買い物に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は嫌がる方が多くなってきているが、ドライブであればみんな一緒に出掛けられるため、体調に合わせて外出するよう努めている。	天候を見て近くを散歩したり玄関前で外気浴をしている。以前は自力で歩いて行けた人が、困難になってからも職員と車いすで欲しい物の買い物に出かけている。	

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方がいないため、現在は職員が管理している。支払い時には声掛けはするが、やってほしいと言われるため、職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことが出来ない方がほとんどなので、やり取りは出来ていない。電話については、自分の携帯を持っている方もいるため、本人の好きな時に連絡を取ることが出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや居室の飾りに関しては、季節を感じてもらえるよう常に工夫している。室温に関しては、常に一定の温度を保つよう気をつけている。	2ユニット間が行き来できる構造になっているので、利用者は建物内を自由に移動している。畳コーナーに簡易ベッドやソファ、テレビの前にも横になれるソファがあり、状態によって個別な対応をしながら居心地よく過ごせるような心配りをしている。梅の花の壁飾りを職員と一緒にできる人が作っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアと居室の行き来は自由に出来るようにしている。食席は、仲の良い人同士が一緒に過ごせるよう配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、本人やご家族に出来る限り馴染みの物を持って来て頂くようお願いしている。また、思い出の品なども持って来て頂くことで、少しでも安心して頂けるよう工夫している。	視覚障害の人の居室をみんなの声が聞こえるフロアの横に移動し、敷物に直にダブルサイズのマットを置いて安全に配慮している。ベッドで過ごすことが多くなった人には、天井から折り紙細工を飾り、目で楽しめるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	色んな所に手すりがついていたり、フロアにシルバーカーを置いてあったりすることで、歩行不安定な方も、安全に動いていただけるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成28年12月12日	評価結果市町村受理日	平成29年 3月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人で1日2回の看護師の往診と1日1回の医師の往診があるため、医療依存度の高い方の受け入れも対応させて頂いている。また、24h体制なので、胃ろうやIVH、酸素持続の方も受け入れる事が出来るため、重度化しても最後まで今日香で過ごす事を希望される方が多い。
建物に関しては、平屋なのでフロア間の行き来がスムーズに出来るため、フロアの違う方同士の交流も日々行っている。田舎ということもあり施設の庭も大きいため入居者の散歩には丁度良い距離になっている。庭専門のスタッフが毎日管理してくれているため、安心して車椅子やリクライニングの方の散歩も行くことが出来る。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2276600422-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年	1月 12日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両方の玄関に理念を掲示しており、常に個々が確認出来るようにしている。その他にも、入社時と年に1回は必ず会議などで理念の確認をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているため、草刈りや防災訓練、地区の祭りなどに参加している。施設主体の交流としては、ジャズライブを行い、地域交流の場を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自宅で介護をしている地域の方たちのための家族の会に参加させて頂き、自分たちが持っている知識や技術を提供させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いの中で出た意見や新たに教えて頂いたことを、職員会議で全職員に報告し、実践に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加して頂いているため、その都度不明な点があれば相談させて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回、施設での勉強会と法人の勉強会にて全職員に把握してもらえるよう努めている。また、職員の入社時にも個人的に勉強会を行い、把握してもらえるよう努めている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回、施設での勉強会と法人の勉強会にて全職員に把握してもらえるよう努めている。 また、職員の入社時にも個人的に勉強会を行い、把握してもらえるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回施設での勉強会を行い、制度について学んでいる。現在はこの制度を活用している方はいないが、必要となったときにしっかり説明出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず直接会って説明させて頂いている。改定時には文章での連絡と、面会に来て頂いたときに直接説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、なるべく多くの職員が家族と話す機会を設け、そこで出た意見などがあればその都度職員同士話し合い、早急に対応するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、最初にそれぞれの係の担当者から話してもらうようにし、みんなが話しやすい環境づくりを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年に1回自己評価と面談を行い、話し合いの結果で昇給の金額を決定している。また、生活状況に応じて、休日を固定にしている者もいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会は年に数回行い、施設での勉強会は毎月2回行っている。 外部研修に関しては、希望があれば参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	色んな事業者連絡協議会などの勉強会にも積極的に参加し、自らの知識や技術を高めるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人が生活している場へ行って話をすることにより、話しやすい環境を作っている。そこで知り得た情報や悩み事などを施設に持ち帰り、職員と相談し、安心できる空間づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話している時に解決策が浮かぶようであれば、今後どのように工夫して対応させて頂く予定なのかを分かりやすく説明させて頂いている。必要であれば、過去の事例も紹介させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの利用が困難となり、グループホームを紹介される方がほとんどなので、他のサービス利用の話はしていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は出来る限り自分でやらせよう心掛けている。1人ではなく、みんなと一緒にやれることも検討しながら対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1回、写真付きの手紙と文章だけの手紙をセットで送らせて頂いている。面会時には、最初職員が間に入って話をし、話しやすい空間を作ることで、家族がスムーズに話をする事が出来るよう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多くなってきたため、面会者とは違う方とも知り合いたいということも増えてきており、フロアが違って話をしていく方が多い。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限りみんなで一緒に何かをする機会を作っている。その中で、1人1人の様子を把握し、孤立することのないように席の配置を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまでさせて頂いているため、本人と関わることはないが、地元の方が多いためお会いすることがあれば、お話をさせて頂くことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情などの変化から、本人の思いをくみとり、その思いに応えられるよう工夫している。困難な場合であっても、ちょっとした表情の変化などから思いをくみ取れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報を作成し、入居前にご家族に伺った情報を全職員が把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があったことについて把握しやすいよう、フロアノートを作成している。また、申し送りの時にも口頭で説明している。また、毎朝カンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝1人ずつプランの評価を行い、変化に早く気づけるよう心掛けている。変化があれば、ご家族や多職種とも相談し、変更が必要であればその都度新たにプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録とは別に、フロアノートを作成し、個人の細かい変化の情報を記入している。また、プランの所にメモを入れておくなどして工夫している。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出や外泊だけでなく、馴染みの場所や店などにも行けるように工夫している。 また、内科以外の病院受診にも対応させて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療依存度の高い方が増えてきたため、外出はあまり出来ない。そのため、地域のボランティアの方に演奏をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人であり、1日2回の看護師の往診と1日1回の医師の往診があり、24h体制なため、入居時にご家族様と相談し、主治医を移してもらっている。その他の病院については今まで通り通院してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24h体制なので、入居者の体調に変化があればいつでも相談できる環境が整っている。連絡するとすぐに対応してもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療法人のため、入院時の情報交換は母体に対応してくれており、スムーズに行えている。入院中や退院時は、病院にてムンテラをしっかりと行い、安心して施設に戻ってきもらえるよう準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前にも看取りまでさせて頂ける施設であることを伝えてあるが、実際に状態に変化があった場合にも、その都度話し合う機会を設け、看護師や医師の意見も交えて対応させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月ヒヤリハットと事故報告の対策を職員みんなで話し合って把握するよう努めている。 また、年に1回施設の勉強会で事故対策について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の訓練は、日中だけでなく、夜間を想定したものも行っている。また、年に1回勉強会を行い、全職員が把握し対応できるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けについては、丁寧にゆっくり話した方が良い方や、方言を使ってさらっと話した方が良い方など、人によって様々なので、1人1人少しずつ変えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しい言葉ではなく、簡単な言葉で分かりやすく伝え、答えやすいように工夫している。また、会話のペースもゆっくり話すよう気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の1日の予定は決めず、それぞれが過ごしたいように過ごして頂くようにしている。自分で決めることが出来ない方に関しては、その都度声掛けし、本人の希望を聞きながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の服装や靴などを見て、それが欲しいという訴えが聞かれたら、近くのスーパーなどへ一緒に買いに行くようにしている。お化粧品などほしい方がいればして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の給食センターから届くため、硬さや味付けなどは少し調整して配膳している。おやつはフロアで作ることも多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表にて日々の摂取量などを確認し、気になるようであれば往診の看護師や医師に相談し対応している。1回の摂取量が少ない方は、回数を増やして摂取してもらっている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後に行っている方と、起床入床時のみ行っている方がいる。また、月に2回訪問歯科が来て対応してくれている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて1人1人の状態を把握し、排泄リズムをつかむことで、自立に向けてのケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時には食物繊維の多いものを食べてもらったり、乳製品を摂取してもらったりする。その他は出来る限り楽しみながら運動できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	点滴持続の方に関しては、往診の処置があるため、午前中に入って頂いている。その他の方に関しては、午後に声掛けして入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は特に決めておらず、本人の意思に任せている。日中も、ぐっすり眠ってしまう事の無いよう、気をつけながら見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書に関しては、それぞれのファイルに入っているため、いつでも確認できる。また、新たに出た薬に関しては、フロアノートに記入し、サインをしてもらうことと、申し送りにて口頭で全員に伝わるまで送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日晚酌を楽しんでいた方に対し、入居後も続けて晩酌できるよう配慮している。また、買い物に行きたいという方がいれば、一緒に買い物に出かけている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は嫌がる方が多くなってきているが、ドライブであればみんな一緒に出掛けられるため、体調に合わせて外出するよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方がいないため、現在は職員が管理している。支払い時には声掛けはするが、やってほしいと言われるため、職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことが出来ない方がほとんどなので、やり取りは出来ていない。電話については、自分の携帯を持っている方もいるため、本人の好きな時に連絡を取ることが出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや居室の飾りに関しては、季節を感じてもらえるよう常に工夫している。室温に関しては、常に一定の温度を保つよう気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアと居室の行き来は自由に出来るようにしている。食席は、仲の良い人同士が一緒に過ごせるよう配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、本人やご家族に出来る限り馴染みの物を持って来て頂くようお願いしている。また、思い出の品なども持って来て頂くことで、少しでも安心して頂けるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	色んな所に手すりがついていたり、フロアにシルバーカーを置いてあたりすることで、歩行不安定な方も、安全に動いていただけるよう工夫して。		